未来を語れる社員こそ

前澤工業　松原社長が年始あいさつ

前澤工業の松原正社長は5日の仕事始めに当たり、年始あいさつを行った。新型コロナの感染防止対策として、社員は本社会議室に分散出席し、出先事務所等ともリモート画面を通じて新年の展望を共有した。

松原社長はまず、コロナ禍の難局で浮き彫りとなった課題に言及。「特別定額給付金の支給で見られた通り、デジタル化の遅れがクローズアップされた。企業ではテレワークなどを推し進めたものの、そのインフラが立ち遅れていた現実に直面した」とした。一方で、「あえて良かった点を挙げるならば、働き方が変わったことだ。デジタル化の徹底が、優秀な人材を集めるツールになり得ると感じた」と振り返った。

今年の展望は、「人口減少が大きな課題である日本で、企業が持続的に発展するためには生産性の向上が第一。世間ではIT投資によるビジネスモデルの変革が叫ばれているが、その原点は働く人のスキルアップにある。業績が悪化してくると研修費などを削減しがちだが、当社は人への投資を強化する。ビジネスモデルの変革に結びつけるため、IT投資をさらに進めながら未来を語ることができる人材を多く輩出する、そうした1年に」と力を込めた。

経営状況については「5月末で現中期3カ年経営計画が終了するが、業績も上向いており、皆さんの努力で成果が着実に上がっている。6月からスタートする新中期3カ年経営計画につなげていきたい」とした。

最後に「インフラストック市場にチャレンジするこれまでの方向は間違っていない。新型コロナの感染拡大で幸先がいいスタートとは言えないものの、良い製品、良い施工をお客さまに届けられるよう、一致団結して頑張りましょう」と社員に呼びかけた。